横浜YMCA
みつかる。つながる。よくなっていく。
No.567 2025
YMCA NEWS 7

2025年7月1日発行
（毎月1日・1回発行）
1988年1月27日第3種郵便物認可
定価50円
発行／
公益財団法人横浜YMCA
広報センター
〒231-8458
横浜市中区常盤町1-7
Tel 045-662-3721
横浜青年

ユースが多様な価値観と出会い、人や社会とのつながりを創出できる機会を提供

横浜YMCAでは、創立150周年となる2034年に向けた将来計画「VISION 2034」を策定し、その実現に向けて歩みを進めています。この計画は、2034年に、どのような社会を目指すのかを見据え、持続可能な地域社会の実現を目指す長期ビジョンです。計画では4つの領域「子育て子育ち」「生活のクオリティの向上」「ユースエンパワーメント」「社会に貢献」を掲げています。今号では「ユースエンパワーメント」について考えていきます。

YMCAの運動は、産業革命によって引き起こされた社会課題に気づき、課題解決のために「祈り」、情熱と正義感をもって積極的に、かつ献身的に取り組んだユースによって生まれました。そして、創設時から途切れることなく今もなお、社会の課題を見つめ、社会をより良くするために、主体的に取り組む社会変革の担い手としてのユースの存在と働きがYMCAの重要な柱となっています。

一方、ユースを取り巻く環境の変化により、社会への関心が小さくなっている実情もあります。内閣府の我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（2013年・2018年）によると、日本では、社会における問題の解決に関与したいと思う13歳から29歳の割合は減少しており、諸外国と比較しても低い状況にあります。反面、友人関係が充実していたり、国際交流活動やボランティア活動を経験したユースほど社会問題の解決に関与したいという意識は高い傾向にあり、ユースが人や社会とのつながりを創出していくことが、今後さらに重要であると考えています。また、ユースが主体的に社会とつながることができるように、サポートする環境をさらに充実させることにも取り組んでいきます。

▲ユースが自らの能力を最大限に発揮できる場所を提供し、ユースの育成につなげていく

現在、世界YMCAではVision 2030を策定し「Community Wellbeing（コミュニティーウェルビーイング）」「Meaningful Work（やりがいのある仕事と雇用環境の創造）」「Sustainable Planet（持続可能な地球のために）」「Just World（公正な世界のために）」の4つのテーマに沿って、世界120の国と地域にあるYMCAが共通の目標をもち、社会課題に対する取り組みを行っています。すべてのテーマで、ユースは当事者として、より良い未来を主体的に作っていく存在として位置付けられています。その中でも「Just World（公正な世界の実現のために）」では、ユースが社会を変革し、平和を創り出すために、さまざまな機会をYMCAが提供していくことを提示しています。

ユース自身が多様性、公平性、包括性、地球規模な社会変革を推進するためには、学びや経験が必要です。横浜YMCAは、ボランティア活動や国際交流、地域活動などを通じて社会との接点となる体験の機会の提供や多様性への理解と共生の実践の場の提供、ユースが自ら企画・運営するプログラムやプロジェクトを支援し、「受け身」ではなく「主体」としての経験を積めるよう取り組んでいます。また、他者と協働する中で、リーダーシップや対話力を育む機会を設けるなどさまざまな機会の提供と支援を行っていきます。

FOR YOUTH DEVELOPMENT　公正で平和な世界に向けて、
ユースが自らの能力を最大限に発揮し、主体的かつ積極的な貢献によって社会を変革し続けるために

パヤオセンターの子どもたちに自転車を送ろうと募金活動

2024年の横浜YMCAグローバル・スタディーツアーinタイに参加したユースが中心となり「パヤオセンターに自転車を送ろう」プロジェクトを企画し、募金を呼びかけています。これは、YMCAパヤオセンターで暮らす子どもたちが通学時に使用する自転車に壊れかけているもの、サイズの合わないものなどが多くあったため取り組んでいます。自転車30台分（約75万円）を目標とし、5月末時点で318,529円募金が寄せられています。7月末まで募金を受付中。

専門学校生が「夏市」でフリースロー体験

横浜YMCAの専門学校では学生たちの多様な体験の機会やそれぞれの能力を発揮する場を提供しています。横浜YMCAスポーツ専門学校では、2024年9月に、「夏市2024 inコンフォール上倉田」（共催 戸塚東口商店会・コンフォール上倉田自治会、協力 湘南とつかYMCA）に、バスケットボール部の学生が中心となり、フリースロー体験のブースを運営しました。学生たちは、専門学校での学びを活かして地域の子どもたちとの交流を図りました。

ウクライナからのユースがウクライナの文化を紹介

横浜YMCAで働くウクライナのユース、カテリーナさんとリリアさんは、5月24日に溝ノ口教会にて行われた日本基督教団神奈川教区川崎・鶴見地区主催のポットラックパーティーにてウクライナの文化を紹介しました。二人は募金への感謝の言葉を述べ、新しい出会いができ、楽しいひと時となったと感想を述べました。また、共に参加したウクライナのパラモノワナタリアさんが自作した詩を朗読すると、会場からは涙を流す姿が見られました。

ユースのレイパーソンが日本YMCA同盟協議会に参画

横浜YMCAにおいて6月19日に行われた理事常議員会では、ユースで横浜YMCA常議員の荒木創太郎さんが鎌倉YMCA運営委員長として承認されました。荒木さんは6月14日から「分断の世界の中で、みつかる。つながる。よくなっていく。」をテーマに国際政策センターYMCA東山荘にて開催された2025年度日本YMCA同盟協議会にて横浜YMCAのユース代議員として参画し、全国のユースの代議員とともに1票を投じました。今後もユースのレイパーソンの増強を図ります。

ホドス

私は大学時代に、気仙沼教会で実習をさせていただいた。そのとき以来親交を深めた友人の畠山重篤さんが今年3月に召されている。漁師である畠山さんが、長靴を履いて数人の漁師仲間と川沿いを上り、山に広葉樹の苗木を植え始めたのは、1988年6月のことであった。それは、気仙沼の海に赤潮が発生して牡蠣の身が赤くなったこと、また、ほどなく海に流れ込む川をせき止めるダム建設の計画が持ち上がっていたことによる。そこで、畠山さんは漁師仲間数人と広葉樹の苗木を植え始めたのであった▼漁師が山に木を植えることは、それまでだれもしたことのないことであったが、畠山さんは愚直にこの活動を続けられた。そして、やがて広葉樹の葉っぱが地に落ちてできたフルボ酸鉄が、川を下り海に流れ込み大量のプランクトンを発生させ、海を豊かにすることが、科学的に明らかにされたのである▼このことは、2011年3月11日に東北地方を襲った東日本大震災でも明らかになった。初めは震災の後、海に生き物が消え「海は死んだ」と思われたが、ほどなく海にプランクトンが大発生をして、牡蠣の養殖が続けられた。それは、漁師が海だけを見るのではなく、海に注ぎ込む山を見つめること、また、その川の流域の人びとの心を育てる運動へと広がった。この畠山さんの活動の根っこには、「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます」（コリントの信徒への手紙二4章18節）の聖書の言葉があったのである。（ま）

三浦 親子同士が交流 子育てマルシェ

横浜市金沢区、横須賀市、鎌倉市、藤沢市のエリアにあるYMCAが連携し、6月1日に、横浜YMCA「VISION2034」第2期中期計画の「子育て・子育ち」の領域における支援の一環として「YMCA子育て応援マルシェ」を三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジにて開催した。

当日は、ヨット・シーカヤックなどの海のプログラムをはじめ、野外炊事でのスモアづくり体験やgagaga5(ガーガーズ)によるファミリーコンサート、市民活動団体の活動紹介などが行われ、親子で1日を楽しく過ごす機会となった。

「YMCA子育て応援マルシェ」を通して、子どもたち同士、親同士が互いに交流を深め、地域の顔の見える関係づくりにより、安心して子育てができる環境づくりのひとつとなった。

じぶんのいのちを守り、みんなのいのちを大切に

ウォーターセーフティーキャンペーン
着衣泳体験・25mチャレンジを実施

横浜YMCAでは、全国のYMCAとともに6月から9月まで「ウォーターセーフティーキャンペーン」に取り組んでいる。この取り組みは、水難事故から子どもたちの水辺での豊かな経験が積み重ねられるようにと行われている。

警察庁の発表によると昨年全国で7月から8月の水難事故は459件(前年対比＋35件)、水難者数は601人(前年対比＋33人)、うち死者・行方不明者は242人(前年対比＋9人)と報告された。水難者601人について中学生以下は、105人(17・5%)で、発生場所は、海318人(52・9%)、河川200人(33・3%)、行為別では、多い順に、水遊び155人(25・8%)、魚とり・釣り84人(14%)、水泳80人(13・3%)となっている。水難事故防止対策としては、海や河川の自然環境の特徴を理解し、水難につながりやすい危険な場所の把握や遊泳時の安全確保、保護者などの付き添いに留意する必要があると伝えている。

そのような中、横浜YMCAでは「じぶんのいのちを守り、みんなのいのちを大切に」をテーマに、ウォーターセーフティーキャンペーンに取り組んでいる。

6月15日には「ウォーターセーフティーデー」として、横浜中央、横浜北、藤沢、川崎、湘南とつか、山手台の室内プールにて「着衣泳体験」を行った。参加した子どもや保護者100人は仰向きで「浮いて待つ」ことやペットボトルなどを抱えて浮く体験を行った。参加した子どものひとりは「浮いて待つことは難しかったけど、ペットボトルを持つことで浮くことができた」と語った。

▲ペットボトルを抱えて「浮いて待つ」を体験する親子

近年では温暖化により気温が高すぎて水泳授業が中止になることや学校のプール施設の老朽化等の影響で、水泳授業のあり方も変わってきた。25mを泳ぐことができない子どもたちが増えているといわれている中、横浜北、湘南とつかYMCAでは「25mチャレンジ」も行い、溺れた際に自分のいのちを自分で守ることができるよう自力で泳ぐ技術を身に着けた。7月には、各YMCAのスイミングクラスにて着衣泳体験を行うほか、近隣の幼稚園や保育園、小学校などに着衣泳体験などの指導者を派遣する。また、いのちを守る行動などをまとめたハンドブックは地域や小学校などに配布している。

今夏も海外プログラムを開催
ハワイ・カナダ・台北・タイへ

横浜YMCAではこの夏に海外プログラムの実施を予定している。

7月20日からは小学3年生から17歳以下の高校生を対象に「Camp Erdman in ハワイ」が実施される。オアフ島ノースショアのキャンプアードマンにて、さまざまなアクティビティーなどを行う。8月9日からは、台北市において、小・中学生を対象に「台北スイミングフェスティバル」が開催され、横浜YMCAからも参加する。8月10日からは小学3年生から高校1年生を対象に「サマーキャンプinバンクーバーCamp Elphinstone」が行われ、現地のキャンパーと一緒に生活し、カヤック、セーリング、クライミングなどのアクティビティーを行う。

8月7日からは15歳から29歳を対象に「グローバル・スタディーツアーinタイ」が実施される。このツアーは、YMCAパヤオセンターを訪問し、貧困や人身取引、子どもの性搾取といった社会課題を学ぶ。2024年10月から呼びかけている「パヤオセンター自転車募金」は、今年5月までに31万8529円の募金が寄せられた。期間を延長し、7月31日まで受け付けている。

YMCA NETWORK NEWS

Topics
140years of HISTORY
プログラムの領域を拡大　vol.16

1977年からYMCAプログラムの領域拡大に特に重点が置かれるようになりました。当時の吉村恭二総主事からの報告では「従来の福祉の分野に押し込められていた身体に障がいのある青少年、心理的な障がいのある自閉症に悩む青少年への身体活動の組み立て、家庭教育の中核となる母親に対する学びへの招き入れ、横浜市の特色である貿易、通関業に携わる人びとへの特別教育コースの設定など、いずれも今後の継続した時間のなかで深まりが期待できる活動である」と伝えています。国際プログラムとしては、カナダ、サンディエゴ、東南アジアセミナーへの派遣、光州YMCAへ小学生を派遣するなど活発な動きがありました。日常のプログラムでは青少年をとりまく環境の中心となる家庭の変容に強調点がおかれました。1970年後半から1980年代前半頃まで開発と拡大が行われていました。

1970年代の特別に重点を置いた方針のひとつとして青少年リーダーシップの養成があり、1978年には、青少年指導者養成基金が設置されました。これにより毎年一定のリーダーシップ養成が確実になり、さらに海外への派遣も含めてできるようになりました。

プログラム領域の拡大としては、日本で最初の試みとして「目の不自由な子どもたちの水泳教室」(1978年)、「情緒障がい児体育指導者夏季研修会」(1979年)などが行われ、続けられました。(文中には当時の表現をそのまま用いています)

▲視覚障がい児のための水泳教室(1977年)

ポジティブネットをひろげよう
～今月のよくなる一歩～

海の恵みと命の大切さを学ぼう
(Responsibility 責任感)

♪子育てランド♪ 五感をつかって

YMCAあつぎ保育園ホサナでは、食育の一環として栄養士と保育者が連携して、子どもたちにさまざまな食材に触れる機会を提供しています。簡単な野菜の下ごしらえでは皮むきや、保育園で豆苗を育てて、給食で食べています。豆苗は根元を残しておくと、もう一度芽が出て伸びてくる「再生栽培」ができる野菜です。子どもたちは豆苗が毎日少しずつ生長していく様子を友だちや保護者と話しながら、楽しそうに観察しています。

子どもたちが食べる給食で使う野菜の皮むきは、年齢が小さい子どもたちも楽しそうに手伝ってくれます。むいたとうもろこしの皮の匂いをかいだり、ひげに触れたり、五感を使って食材に触れることを楽しんでいます。実際に触れることで、普段は野菜が苦手な子も「少し食べてみようかな」と興味を持っている様子がみられます。

今後も継続していろいろな食材に触れながら、恵みに感謝することや、子どもたちの興味や関心が広げられるように関わっていきたいと思います。

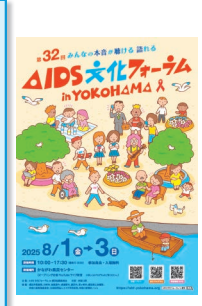
(あつぎYMCA保育園ホサナ　主任 鶴見菜穂)

横浜 AIDS文化F 8月1日から開催

1994年にはじまり、今年で32回目を迎える「AIDS文化フォーラムin横浜」（同組織委員会主催／事務局 横浜YMCA）は、8月1日（金）から3日（日）にかながわ県民センターにて開催を予定している。

「みんなの本音が聴ける・語れる場」としてのAIDS文化フォーラムin横浜は、今年は29のプログラムと展示が企画されている。

1日午前10時からの開会式後のオープニングでは「変わる社会、変わらない社会」をテーマに、生きづらさを抱えている人たちが生きやすい社会になっているかについて、AIDS文化フォーラムの原点に立ち返り、いま私たちに何が問われているのかを参加者とともに考える機会とする。詳細は4面をご参照ください。



ひとかき　経営職？

総主事　佐竹　博

YMCAでは「顧客」「儲け・利益」などの用語をあまり使用しません。YMCAの公益的な働きにそぐわないのであえて避けているのだと思います。

YMCAの事業は、使命に基づき、社会問題をとらえ、自分たちのリソースを活用して社会課題に取り組む、いわゆる手段です。しかしその形態は一般的にみて、ほとんどが企業のものなどと「競合」していている現実があります。同様の事業を行っている業界のセミナーを受けたり、資格取得に挑戦したり、私たちはその業界から「顧客満足度」「利益」といった言葉で学ぶこともあります。

日本経済新聞に「7割以上が管理職になりたくない」という調査結果をもとに「管理職」を「経営職」と呼んではどうかというコラムがありました。「管理職」が嫌われるのは、調整事務管理、トラブル対応もあることなどが理由にあるそうです。本来的には管理職はマネジメントを担うのは、経営を担う層のこと、組織の代表者だけが経営者ではなく、部門やチームの大小にかかわらず意思決定をしていくのが経営者だということで経営職の説明がありました。

YMCAの責任者もそれぞれの部署で地域や社会や人びとのためにすべきことを展開する点では経営職に相当すると思います。そして管理のためのビジネス知識やスキルではなく、あらゆる場面の意思決定のために学び、自らを高め成長させていく意欲のある人材が担うものと考えます。私はYMCA運動を実践する事業の推進者は「管理職」ではないと共感するのですが、「経営職」もYMCA人である私の頭にはなじまないのです。未来の担い手を育てるために考える日々です。

2025年度横浜YMCA会員総会 Webと会場での決議で議事承認

2025年度横浜YMCA会員総会は、5月31日に湘南とつかYMCAホールの会場とライブ配信にて開催し、146人（会場107人・視聴者39アクセス）が参加し行われた。

会員総会は、黄崇子常議員会議長の議事進行により行われ、佐竹博総主事から2024年度事業及び会計報告、2025年度活動方針案及び予算案、岡戸良子総会準備委員長から常議員の選出経緯の説明と提案があった。決議については、オンライン視聴者はWebにて、会場は書面にて行い、承認（284人）となり総会構成員過半数以上を満たし、すべての議案が承認された。

会員表彰・奉仕の書には石橋正彦氏（4面ご参照）が受賞し、記念の盾が工藤誠一理事長から手渡された。石橋氏は、大和YMCA運営委員として1991年から運営委員を担い、1993年、1994年には、国際協力委員としてタイ、ミャンマーを訪問、特に1994年の訪問時には国際協力委員会委員長として横浜YMCA国際協力募金を現地に届ける役割を果たした。

さらに「やまと市民ファミリークリスマス」「やまと平和を祈る集い」の立ち上げメンバーとして、まただれでも楽しめる「輪和Waコンサート」の活動などに積極的に貢献され、大和YMCAの活動に尽力された。

また、YMCAのユースリーダーとしての働きが顕著で優れたリーダーシップを発揮した31人に奉仕賞が贈られた。

最後に工藤誠一理事長が多くの会員の支えに感謝の言葉を述べた。

特別プログラムでは能登半島支援活動に派遣された4人のスタッフが報告を行った。会場では、タイ・パヤオクラフトや能登半島地震・豪雨被災地支援のための輪島塗リユースや物産の販売も行われた。

▲写真上左から時計回り　議事を説明する佐竹博総主事、工藤誠一理事長から「奉仕の書」記念の盾を受け取る石橋正彦氏（左）、「奉仕賞」を受賞したユースリーダーの皆さん、会員総会に参加した皆さん、特別プログラム能登半島地震・豪雨災害支援活動の報告

新任含む7人の常議員を選出

2025年度横浜YMCA会員総会では、会則に基づいて常議員の改選が行われ、新任3人を含む7人が選出された。

常議員は6月現在29人で、キリスト教関係者や教育界をはじめ県内のさまざまな分野で活躍している人びとによって構成されている。任期は3年間で、2期を超えて連続して候補者になれないことが定められているため、今期をもって岡進氏、鬼嶋雄三氏、竹中優奈氏の4人が退任された。今年改選となった7人のうち、3人が新任、2人が再任、2人が留任として総会準備委員会から推薦された。会員総会において岡戸良子会員総会準備委員長から候補者選考の経緯が説明され、次の7人が承認された。氏名①職業②所属教会（またはYMCA関係役職）の順（順不同・敬称略）

〈新任〉

岸川　学
①神奈川県立保健福祉大学准教授
②日本基督教団田浦教会。維持会員。

齋藤百合子
①大東文化大学特任教授
②日本同盟基督教団徳丸町キリスト教会。元横浜YMCA常議員。国際事業委員。

町田　零二
①大和市市議会議員。
②カンバーランド長老キリスト教会高座教会。元横浜YMCA常議員。大和YMCA運営委員長。

〈再任〉

宮川　周子
①日本基督教団横浜本牧教会牧師。
②横浜YMCA常議員。

黄　崇子
①無教会駒込キリスト聖書集会。
②横浜YMCA常議員会議長。横浜中央YMCA同盟学生部委員。

荒井　仁
①日本基督教団紅葉坂教会牧師。
②横浜YMCA運営委員。日本YMCA常議員。横浜中央YMCA運営委員長。公益財団法人横浜YMCA理事。学校法人横浜YMCA理事。

水田　秀子
①学校法人横浜英和学院理事。②日本基督教団横浜大岡教会。横浜YMCA常議員。国際事業委員。公益財団法人横浜YMCA理事。学校法人横浜YMCA理事長。

FLASH NEWS

世界難民の日（6月20日）に合わせて、横浜YMCA国際事業委員会と職員によるSDGs委員会は、オンラインにてグローバルセミナー「難民を歓迎できる社会に～アルペなんみんセンターの取り組み」を6月7日に開催した。講師には有川憲治氏（アルペなんみんセンター事務局長）を招き、難民申請した人が安心して暮らせるよう、生活支援や日本語学習、地域とのつながりを作る取り組みの事例が話された。ウクライナから避難し横浜YMCAで働くカテリーナさんからのメッセージもあり、それぞれが難民について考える機会となった。

災害時における子どもの心身の回復と日常生活を取り戻すために欠かせない「子どもにやさしい空間」（主催 神奈川県ユニセフ協会・共催 横浜YMCA）の研修会が5月24日に横浜中央YMCAにて行われた。「子どもやさしい空間」研修会～避難所で！地域で！みんなができる子どもの居場所づくり～」をテーマに災害時における子どもの心身を守る避難所運営のあり方についてワークショップを通して実践的に学んだ。

ワイズコーナー　リーダーズフォーラム　ワイズメンズクラブ東日本区かながわ部

ワイズメンズクラブ東日本区が支援するYMCAのユースリーダーを対象とした研修プログラム「ユースボランティア・リーダーズフォーラム」は、9月5日（金）から7日（日）に富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジで横浜YMCAが事務局となり行われます。ユースリーダーが活躍するプログラム分野も多様化している中で「私にとって　見つかる　つながる　よくなっていく」をテーマに先輩リーダーの導きのもとに、基調講演やグループワークを通して、自分自身を見つめ、リーダー活動での気づきや可能性を語り合います。ワイズメンもサポーターとして見守っています。

（ワイズメンズクラブ東日本区かながわ部　書記　板崎淑子）

横浜中央YMCA Tel 045-662-3721
横浜北YMCA Tel 045-433-4321
藤沢YMCA Tel 0466-26-1151
横須賀YMCA Tel 046-854-5126
川崎YMCA Tel 044-932-2031
厚木YMCA Tel 046-244-4181
鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859
YMCA山手台センター Tel 045-813-1022
湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
金沢八景YMCA Tel 045-782-3003
YMCA東とつかセンター Tel 045-392-3747
大和YMCAライフサポートセンター Tel 046-264-3192
横浜YMCAワークサポートセンターアンジュ Tel 045-867-0090
横浜YMCAワークサポートセンターレザン Tel 045-860-5252
YMCAあつぎ保育園ホサナ Tel 046-222-8619
YMCA山手台保育園アルク Tel 045-813-1022
YMCAとつか保育園 Tel 045-870-3663
YMCAマナ保育園 Tel 045-790-3588
YMCAとつか乳児保育園 Tel 045-870-3235
YMCAつるみ保育園 Tel 045-500-5030
YMCAかわさき保育園 Tel 044-520-1825
YMCAいずみ保育園 Tel 045-800-3010
YMCA東とつか保育園 Tel 045-820-5588
YMCA東かながわ保育園 Tel 045-440-3763
YMCAたかつ保育園 Tel 044-281-7833
金沢八景YMCA保育園 Tel 045-353-5130
YMCAオベリン保育園 Tel 042-707-9974
大和YMCA保育園 Tel 046-214-3192
富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ Tel 0544-54-1151
三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ Tel 046-888-2100
鶴見中央YMCA Tel 045-508-7800
YMCAライフサポートセンター鶴見 Tel 045-506-0131
本部事務局 Tel 045-662-3721

INFORMATION

横浜YMCA

●感染症等の拡大防止のため、イベントを延期・中止させていただく場合があります。（参加費は税込み）

レクチャー

■イングリッシュセミナー

日　時　7月18日（金）10時～正午
会　場　鎌倉YMCA・オンライン（Zoom）
テーマ　My life in the UK - What I study,Where I live and My time in Japan-
ゲスト　Nell Hogan さん（イギリス）
参加費　会員1,200円、一般1,500円
申込み　kamakura_info@yokohamaymca.org
問合せ　鎌倉YMCA　Tel 0467-24-7859
〇イギリスや日本の暮らしについて学びます。

■横浜YMCAグローバルセミナー

日　時　7月19日（土）午後4時～午後5時30分
会　場　オンライン
テーマ　現代の東南アジアの人身取引 - 北タイ・パヤオとその周辺で何が起きているのか
講　師　齋藤百合子氏（大東文化大学特任教授・横浜YMCA常議員・国際事業委員）
参加費　無料
申込み　QRコードからお申し込みください。
主　催　横浜YMCA国際事業委員会

■こどもの意見表明支援事業　啓発講座

日　時　7月20日（日）午後1時30分～午後3時
会　場　横浜中央YMCA・オンライン
講　師　飛彈野理氏（弁護士・横浜市こどもの意見表明支援事業スーパーバイザー）・菊地まりか氏（一般社団法人マスターピース代表理事）
テーマ　子どもの声を聴くということ～子どもの意見表明権とアドボカシーの実践～
対　象　子ども支援、社会的養護、子どもの意見表明などに関心のある方。子ども支援に従事する方・学生・一般の方
参加費　無料
定　員　40人
申込み　7月16日（水）までにQRコードまたはhttps://ur0.link/CYmZIQからお申し込みください。

イベント

■第32回AIDS文化フォーラムin横浜

日　時　8月1日（金）～3日（日）午前10時～午後5時30分（最終日午後4時）
会　場　かながわ県民センター（横浜駅西口から徒歩5分）
内　容　QRコードからご覧ください。
参加費　無料
主　催　AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会
問合せ　AIDS文化フォーラムin横浜事務局（横浜YMCA内）
Tel 045-662-3721

キリスト教理解

■とつか聖書を学ぶ会

日　時　7月10日（木）午前10時30分～
会　場　湘南とつかYMCA 4階404教室
テーマ　聖書を楽しく学ぼう
講　師　堀野浩嗣氏（横浜戸塚バプテスト教会牧師）
参加費　無料
問合せ　Tel 045-864-4768
ymsports@yokohamaymca.org

子育て支援

■パパと遊ぼう～ふれあい遊びとパパ同士の子育てトーク、情報交換あり～

日　時　7月12日（土）午前10～11時
場　所　中区地域子育て支援拠点のんびりんこ
対　象　0歳児と父親
問合せ　中区地域子育て支援拠点のんびりんこ Tel 045-663-9715

■プレママ・プレパパDay

日　時　7月22日（火）午前10時～11時
会　場　金沢区地域子育て支援拠点とことこ
対　象　第1子妊娠中の方
内　容　先輩ママ・パパとおしゃべりタイム
問合せ　金沢区地域子育て支援拠点とことこ Tel 045-780-3205

学校説明会

■YMCA健康福祉専門学校

日　時　7月*19日（土）・22日（火）・24日（木）・*26日（土）・*31日（木）
午前10時～/午後2時～*は体験授業があります。
申込み　QRコードからお申し込みください。
問合せ　Tel 046-223-1441

■横浜YMCAスポーツ専門学校

日　時　7月12日（土）・19（土）・29（火）
午前10時30分～/午後2時～ このほかサッカー説明会・体験授業（サッカー・トレーニング）も行っています。詳細はQRコードをご覧ください。
申込み　QRコードからお申し込みください。
問合せ　Tel 045-864-4990

■横浜YMCA学院専門学校　国際情報ビジネス科　オープンキャンパス

日　時　7月12日（土）・26日（土）午前10時～
【オンライン説明会】
7月3日（木）・17日（木）午前10時～・8日（火）・22日（火）午後2時～
申込み　QRコードからお申し込みください。
問合せ　Tel 045-661-0080
gakuin-jl@yokohamaymca.org

ウクライナ料理と体操でリフレッシュ みどりクラブ

6月2日に、第29回みどりクラブの活動を十日市場地域ケアプラザで行いました。横浜市緑区近隣で生活するウクライナの人びとが集い、情報交換と自主プログラムを行っています。この日はウクライナの家庭料理「チュブレキ」（ひき肉を詰めた揚げパン）を作った後、食事をしながら近況の報告や情報交換を行いました。また参加者からのリクエストとしてリフレッシュ体操プログラムを行い、それぞれが身体を動かし笑顔があふれました。

ユースの活動の機会をサポート 青少年指導者養成基金

子どもたちの健全な成長につながる青少年活動には、その導き手となる優れた指導者を養成する必要があります。横浜YMCA青少年指導者養成基金（青少年基金）は、指導者養成のために行われる研修参加のために基金にて支援を行っています。2024年度は14の活動、249名に総額1,960,236円の基金が適用され、全国リーダー研修会のほか、日本YMCA大会、グローバル・スタディーツアーinタイなどに青少年が参加し、学びを深めました。今後も活動の機会につながるよう基金への支援を受け付けています。

140years of HISTORY

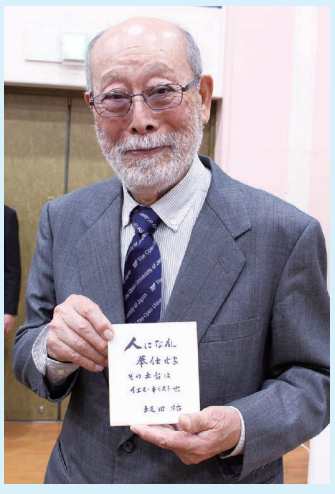
横浜YMCAは2024年10月に140周年を迎えました。140年のあゆみを写真で紹介します。

▶中国ともだちの旅・上海にて（100周年記念事業1984年3月）

My Y Story 186

YMCAとともに69年。長く奉仕ができていることに感謝

「奉仕の書」受賞（2025年）
元大和YMCA運営委員
石橋　正彦



この度は、5月の横浜YMCA会員総会にて「奉仕の書」受賞を心からうれしく思います。「奉仕」は、機会が与えられ、家族に支えられ、皆様に助けられ、何より健康であること、などの条件が満たされてはじめて出来ることです。感謝のほかありません。

私のYMCA歴は、高校時代はハイY（ハイスクールYMCA）で過ごしました。この3年間は信仰につき学び、考える時でした。このハイYのOB・OG会は今も年に数回集まって交流が続けられています。大学時代は週3回横浜YMCA英語学校で英会話を習いました。大学院時代は仙台YMCAの英会話サークルに毎週参加しました。このように私はYMCAに育てられたのです。

私が属するカンバーランド長老キリスト教会高座教会では、私は教会内ではボーイスカウトの指導者としての役割が課せられ、また対外的には大和YMCAのお手伝いをすべく遣わされました。1982年から活動を始めた大和YMCAでは最初のうちはプールをよく利用しました。1990年に大和YMCAにも運営委員会が出来、私は1991年から運営委員を仰せつかりました。以来主として「やまと市民クリスマス」や「やまと平和を祈る集い」などのプログラムで奉仕させていただきました。また国際協力委員会委員として、タイ・ミャンマーに2回訪問をしました。

今回の「奉仕の書」受賞を機に「奉仕」について考えました。そこで関東学院中高で教わった「人になれ　奉仕せよ」という校訓が私にとって大きな存在だったと思われました。この校訓は横浜スタジアム3塁側ベンチ上の広告にも書かれているので、関係者以外にもよく知られているようです。この校訓を創られた関東学院坂田祐院長は当初「人になれ　奉仕せよ　その土台はイエス・キリスト也」とされたのですが、後半部分は略されています。

改めて「奉仕」のあるべき姿を考えますと、坂田院長が当初意図された「その土台はイエス・キリスト也」の精神こそが大切なのだと思いました。これからの横浜YMCAの奉仕にもこの土台がもっとあってほしいです。

▲奉仕の書を受賞された石橋氏を囲んで（前列中央/2025年5月31日 会員総会にて）

▶デスクペン　今夏も多くの子どもたちや青少年がYMCAの活動に参加します。安全で楽しく、新しい出会いとワクワクする体験ができ、豊かな成長につながりますように。（直）